

## 流星体における Na 昇華について : 流星群の近日点距離依存性

## Thermal desorption of Na in meteoroids: Dependence on perihelion distance of meteor showers

# 春日 敏測 [1]; 山本 哲生 [2]; 木村 宏 [2]; 渡部 潤一 [3]

# Toshihiro Kasuga[1]; Tetsuo Yamamoto[2]; Hiroshi Kimura[2]; Jun-ichi Watanabe[3]

[1] なし; [2] 北大低温研; [3] 国立天文台・天情セ

[1] NAOJ; [2] ILTS, Hokkaido Univ.; [3] PR Center, Nat.Astron. Obs. Japan

流星は、太陽系始原小天体を起源とする塵が、地球大気に飛び込んで高温で発光する現象である。そのため、流星を分光観測することで、通常はガスになりにくい金属元素と、その量を推定することができる。流星天文学では、長い間、観測されてきた金属元素の量が流星体そのものもともと含まれていた金属量を反映していると思われていた。

ところが、太陽系始原天体の中で固体表面を持つ惑星や小惑星の表面は、宇宙風化と呼ばれる変成を受けていることが分かってきており、そのメカニズムやタイムスケールが注目されつつある。流星群の Na をはじめ、金属組成比についてもそのような可能性が示唆されている。

本研究では、平衡凝縮を仮定した流星体における Na の枯渇可能性について、これまでの観測結果とともに議論する。